

教科	科目名	学年	単位数	必修 選択
家庭	子どもの発達と保育	3	2	選択

* 保育進学希望生徒の選択

教材費・実習費等
年間の実習費：2,000 円程度

到達目標	保育に関する知識と技術を習得させ、子どもの発達の特徴や発達過程などに関する知識や技術を、総合的にとらえさせ、子どもと遊び、表現活動、児童文化財など子ども文化の充実を図る能力と態度を育てる。
------	--

年間スケジュール

期間	単元・項目名・実施内容など	受講に対してのアドバイスなど	備考
1 学期 中間	子どもの発達 ・子どもの発達の特徴 保育体験実習① 児童文化財の作成	・子どもの発達の様々な側面が、相互に関連することを、年齢区分に沿って理解する。 ・体験実習で子どもの発達の様子を観察する。	・子どもの発達には順番があり、それぞれが相互に関連することを確認する。
1 学期 期末	子どもの発達過程 ・身体と運動機能、情緒の発達 ・人間関係の発達 子どもの生活 保育体験実習② ③	・子どもの発達にとって良い環境は、家庭生活との連続性が重要であることを理解する。	・保育技術の定着と子どもの生活について確認する。
2 学期 中間	子ども文化の重要性 子どもと遊び ・遊びと発達 ・遊びと遊具 保育体験実習④ ⑤	・遊びの意義と重要性和遊びの種類と発達とのかかわりについて、理解する。	・遊びの意義や遊具について、基礎的な理解と知識が身についたか、児童文化財を考える上で役立つ。
2 学期 期末	子どもの表現活動と児童文化財 ・造形表現活動 保育体験実習⑥ ⑦ 児童文化財の作成	・地域との交流を通し、子どもと遊びについて学び、遊具のえらびかたや遊び方、遊び場、遊びの指導について理解する。	・実際に保育にかかわる方の話を聞くことで身近な話題としてとらえる。
学 年 末	子ども文化実習 児童文化財の作成	・表現活動や、関連する児童文化財（パネルシアター、紙芝居、人形劇など）を作成し、実習を行う。	・子どもとの交流を通して、児童文化財の大切さや、発達に応じた取り上げ方の大切さを考える。

評価方法と 評価のポイント	実習で意欲・態度を、作品・課題で技能・表現を評価する。グループでの協力、自己評価、他者評価、プリント、課題等の提出状況も考慮する。
------------------	---

教科からのアドバイス

保育で学んだ知識と技術を総合的に活用し、子どもの発達段階や年齢に応じた作品を作成する。発表は子どもとの信頼関係を生かしつつ、子どもの興味関心をひくように行う。子どもと遊びを通してふれあう活動ができること。